

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201251		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホームハートの家七番館 1階		
所在地	札幌市北区屯田9条9丁目6-3		
自己評価作成日	2025年9月8日	評価結果市町村受理日	2026年1月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190201251-00&ServiceCd=320&Type=search#title01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が自分のペースで生活できるように、個別に合わせたタイミングで支援し、マイペースに暮らせる環境づくりに力を入れています。職員間で話し合いしやすい関係作りに取り組み、話し合いの時にすぐに会議が出来るよう取り組みご入居者様に安心した生活が提供できるよう取組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームハートの家七番館」は、閑静な住宅地に立地している2階建て2ユニットの事業所である。バス停にも近く、近隣には保育園や高齢者施設、公園、スーパーマーケットやホームセンターなどもあり生活の利便性が高い事業所である。居間や食堂の他、窓際に談話コーナーがあり、利用者は好きな場所でゆっくり寛ぐことができる。トイレも広く、車いすを使用している利用者も一人での排泄が可能になっている。居間には、利用者と一緒に制作したクリスマスツリーなどの装飾が綺麗に飾られている。地域交流の面では、利用者と一緒に町内清掃や花壇作りに参加したり新年会に出席している。近隣の保育園児とのプレゼント交換やDVDで子供たちの活動を鑑賞するなどの交流もある。管理者は法人研修や内部研修を計画的に実施し、職員の資質向上に熱心に取り組んでいる。また、職員との定期面談や普段の業務の中で意見や提案を聞き取り、業務改善に活かしながら働きやすい職場環境の整備に努めている。法人の昇級昇格試験で理念を確認しており、全職員がしっかりと理念を理解して日々実践に努めている。管理者を中心に全職員で一人ひとりの利用者の思いを大切に、その方に応じた細やかな対応を行っている。職員の明るい対応と家庭的で何でも相談しやすい雰囲気は家族からの信頼が厚いグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざし、共に生き共に感じ合い、共に喜びあえるくらしを創りつづける」という理念に基づき、入居者様に寄り添い、安心して暮らせるよう、職員間で話しあい、より良い方法を日々検討している	地域との関わりを示す文言が入っている以前の法人共通理念を、事業所独自のホーム理念として現在掲げている。事務所と玄関に掲示してユニット会議などで確認したり、職員は年1回の昇級昇格試験の時に再認識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集まりなどに参加できるよう心掛けている。今年は町内の新年会に参加できた。職員が少ないことで参加してきてくれないことがあった。	利用者と一緒に町内清掃や花壇作りに参加したり、新年会に出席してゲームを楽しんでいる。保育園児との交流を予定していたが感染症の流行で実施できず、プレゼント交換やDVDを届けてもらい鑑賞している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での経験、研修で学んだ知識や技術を運営推進会議の場をかりて、発表、理解の輪を広げる事が出来るように努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で施設の現状や活動の内容を報告している。地域の方やご家族様からの意見なども聞き、サービス向上に努めている	事業所の報告を行い、地域包括支援センターから介護うつや高齢者の消費者被害の情報を得て、全家族に議事録と一緒に資料も送っている。会議案内は送っているが限られた家族の出席で、地域代表の参加も得られていない。議事録に質疑応答を記載する予定である。	町内会代表や全家族にメインテーマを記載した会議案内を送り、参加できない場合もテーマに関する質問や意見を聞き取り、会議に反映させるような取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市へ毎月初めに入居状況調査票の提出、アンケート依頼への報告、事故報告等を実施している。	役所に訪問することはほとんど無くなり、書類の提出もインターネット上でのやり取りになっている。相談ともメールでやり取りしている。生活保護担当の職員が来訪した時は利用者に関して情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で身体拘束委員があり定期的に委員会を開催している。	指針を基に、勉強会で具体的な禁止行為を確認している。委員会は、職員も参加して年間4～5回開催している。委員会の議事録に拘束の有無を見やすく記載し、勉強会の内容と資料も分かりやすく整備したいと考えている。玄関は常に施錠しているが、閉塞感を感じないように柔軟に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外施設内での勉強会で職員に虐待に関わる意識をもって頂き、管理者は注意を払い、防止に努めている		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や後見人制度について法人の勉強会で学ぶ機会を設けている為ユニット会議での研修を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族様と契約書の読み合わせを行い、質問等がありましたら、お答えしております。また退去の際など今度想定されることなど、お答えすることがあります。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関に意見箱がありますが、投函されてはおりません。ご家族様来られる際、できる限りお話を聞かせていただくよう。また、運営推進会議など来られた際に意見を聞かせていただくことがあります。	面会や電話で利用者の様子を伝えて家族の意見や要望を聞き取り、タブレット端末に記録している。毎月ユニットごとにホーム便りを作成し、全家族に送っている。個別のメッセージを添えることもある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や面談時に話を聞き、出来る事から反映させています	ユニット会議や業務の中で職員の意見や提案を聞き取り、勤務時間を変更したり勤務時間内に業務が終了できるように内容を見直している。管理者は、職員と2~3か月ごとに個人面談を行っている。職員は利用者担当や行事担当などの係を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や勤務時間の中で、職員と一緒に働くことにより、各々頑張っているところややりがいなどを聞き、日々の業務に務めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修や施設内での研修を実施しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流などは出来ておりません		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご自宅や入院先に行き面談を行い、ご家族様やご本人の要望など聞いております。入所後どのような生活をしていきたいか聞き、相談しやすく安心して頂ける環境づくりにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者、職員とご家族様、ご本人とお会いし、生活歴、性格など伺い今後も安心して過ごせるようご要望に耳を傾けております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に担当のケアマネさんや、ご家族様からお話をお聞きしてご本人様の性格や生活歴など把握したうえでできる、サービスの提供を伝えていく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事を見つけ、役割を探し利用者様と職員との関係が築けるように努めております。今まで出来なかった事も他入居者様や職員と一緒に行うことで関係を気づいています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた際に日々の生活状況をご家族様に伝え、ご希望や思いを聞き日々の生活に生かしていく		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご本人から馴染みの人や場所を伺っているが中々行けることや合うことが難しく、施設での職員や他入居者様と馴染みの関係になり安心して過ごせるようにしております	町内の知人や友人が訪ねて来たり、知人からハガキが届く利用者もいる。家族と一緒に自宅に帰ったり親族と会っている方もいる。家族と墓参りや外食に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士楽しく生活できるようにする。レクリエーションなども行い職員が間に入りながら良い関係性を築けるよう心掛けております、その他気の合う方同士席を一緒にしております		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に今後の生活について話をお聞きしたり、また、その後気になる点がありましたら、お話を聞きするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から利用者様の思いなどを聞き出来る限りご希望の対応をできるようにする。会話が難しい方はこれまでの生活歴や様子を見ながらご本人様が望む生活を提供していきます	半数ほどの方は会話から思いや意向を把握し、難しい場合は表情や仕草から把握している。センター方式シートを作成し、1年ごとに更新している。趣味や嗜好も具体的に記録したいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前にどのような生活をしてきたか伺い安心した環境で生活できるように努めております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で一人一人の生活リズムを考え、体調や心身状態の変化に配慮し日々の生活を提供。職員同士での送りの際も気づいた事は伝える		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度のフロア会議で職員が気づいた点やご本人の望む生活、ご家族様の思いを聞きケアプランを作成しております	利用者担当職員の評価を基に全職員で話し合い、計画作成担当者を中心に3か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録は介護計画にそって記録し、評価に活かしている。家族の意向を具体的に聞き取り、介護計画に反映させる意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活を記録し、職員が共有し全体を把握しております。担当職員も作っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画以外でも、都度職員と話しをし、柔軟に解決していくようにしております		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食レクリエーション、ドライブレクリエーションなど行い、行った先で楽しまれています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様に往診医療機関を紹介している。その他入居前からかかりつけの医療機関の継続を行っています。	協力医療機関の往診を受けている方と、家族とかかりつけ医に通院している利用者がある。家族と受診する時は、利用者の状況を書面で医師に伝えている。受診と往診はタブレット端末に個別に記録している。	

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携や往診の看護師と相談を行いアドバイスをいただき参考にすることがあります。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際や入院中など、ご本人様の様子について、どう施設で過ごしていたかなどできる限りはやくお答えできるよう努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向をお聞きし、施設内でどこまでできるか、お伝えし、できる範囲での希望に添い、医療と連携を行いそして家族様含め話し合える機会を作っていきたいと思う。	利用開始時に重度化と看取りの指針にそって事業所の可能な対応について説明し、看取りの意向も確認している。体調変化に応じて主治医と家族、事業所で方針を話し合っている。看取り研修も年1回実施しているが、最近看取り経験はない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の際、連絡網やマニュアルに添い対応を行っております。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での避難訓練、地域連動の避難訓練を実施している。	年2回、昼夜の地震からの火災などを想定した避難訓練を実施している。ここ数年は消防署や近隣住民の参加は無く、ケア別の対応についての話し合いも行っていない。救命講習は計画的に進める予定である。	消防署や消防設備会社などの協力を得た避難訓練を実施するよう期待したい。また、地域との協力体制を再確認し、避難訓練への参加も依頼するよう期待したい。ケア別の対応について、職員間で話し合うよう期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の尊厳を大事にし、更衣や排泄時などプライバシーの配慮を行っております	法人のWEB研修にて言葉かけや接遇に関して学んでいる。申し送りの際は部屋番号を使用し、書類などは目につかない場所に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意志を確認し、お手伝いや安心できる選択肢ができるよう働きかけております			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の気持ちや身体状況に合わせて職員都合ではなく入居者様のペースに合わせて対応しております			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方は職員と一緒に服を選んだりされています。職員が選ぶ時は、選んだ物を見て頂き一緒に決めます。月に1回、訪問美容もあるのでカットされます			

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの際は盛り付けなどを入居者様にやっていただき、職員も一緒にやることにより楽しみながら行っております。後片付けの際も一人一人の状況に合わせて、お手伝いして頂いております	誕生日は本人の希望で蕎麦屋に行くなど、希望の食事を楽しむこともある。いなり寿司やホットケーキ作りに利用者も一緒に参加したり、出前の寿司なども食事の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に必要な水分量の把握、食事量の把握に努めている。食事が進まない時などは声掛けし召しあがって頂き、往診医に状況報告をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、実施しております。夜間帯は義歯をお預かりし洗浄剤につけております。歯科往診もあり配慮すべき点を把握しております		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミング確認しトイレ誘導や声掛けを行っております	紙面とタブレット端末にて個別に排泄状況を記録している。昼夜共にトイレを使用している。自立している方もおり、一人ひとりに合わせた時間帯で声かけ誘導を行うことで失敗を減らし、排泄の自立へ向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品摂取していただいています。排便の間隔を記録しております。また医師の指示のもと、下剤の調整も行ったおります		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日で別れ週2回の入浴、ただし、体調や気分に合わせて時間や曜日変更を柔軟に行っております。	土曜日を予備日とし、午前中の時間帯を中心に一人当たり週2回の入浴を行っている。入浴剤の使用や音楽、職員と会話を楽しみながら入浴を行っている。リフトも完備しており、全員が湯舟に浸かっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本にの体調や様子を見ながら日中も昼寝する事がある。また夜間帯は部屋の照明なども確認し、安心して寝て頂いております。寝つきが悪い方は、職員が寄り添う、話を傾聴したりしております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬提供の際は職員やご本人様に確認を行いミスがないよう提供しております。また医師の処方箋や往診、受診の際、説明などもしっかり聞き内容を職員で共有しております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でご自身で出来る事は行って頂いております。また入居者様との会話の中でそれぞれの思いを聞き提供出来る様にしております		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとりひとりで出かけることはありませんが、ご家族様や職員と買い物など行くことはあります	事業所周辺の散歩や近隣の公園のベンチで外気に触れている。当別や石狩方面の道の駅へドライブに出かけたり、戸田記念墓地公園や石狩方面に花見や紅葉見学に行っている。大型商業施設のフードコートでランチなども楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理しております。外出レクの時のみそれぞれお財布を持って頂き好きな物を購入されます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙でのやり取りはなく、電話したいご希望があれば電話します		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾をしております。職員が毎日清掃を行い綺麗な環境作りを心がけております	居間はユニットごとにソファやテーブルの配置を工夫し、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮されており、明るく開放的な造りになっている。クリスマスツリーや手作りのクリスマスリースなど、季節の装飾や利用者の写真が飾られており家庭的な温もりを感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の意見を取り入れ、ソファの位置や食席の位置を決めております		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていた家具などを持ってきて頂いております。ご本人の使いやすい配置に配慮しております	クローゼットとストーブが備え付けられており、テレビなどの家電製品、仏壇、タンスや小物入れなど使い慣れた物を持ち込んでいる方もいる。好きな生き物の人形や小物、書道作品や家族写真を飾り付けている利用者もおり、個々の特色が出た居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなどに手摺りを設置し安全に立ち上がれるように工夫しております。居室には表札が分かりやすい様にしております		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201251		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホームハートの家七番館 1階		
所在地	札幌市北区屯田9条9丁目6-3		
自己評価作成日	2025年9月8日	評価結果市町村受理日	2026年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が自分のペースで生活できるように、個別に合わせたタイミングで支援し、マイペースに暮らせる環境づくりに力を入れています。職員間で話し合いしやすい関係作りに取り組み、話し合いの時にすぐに会議が出来るよう取り組みご入居者様に安心した生活が提供できるよう取組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190201251-00&ServiceCd=320&Type=search#title01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年12月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざし、共に生きともに感じ合い、共に喜びあえる暮らしを創りつづける」施設開設時の理念を実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は出来てはいないが町内清掃や、花壇造りで町内と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との直接的な交流が出来ていない為、積極的な支援方法の提案などは出来ていない。今後町内の交流を通して貢献していきたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での運営推進会議で地域包括支援センターの方や、ご家族様にご意見をいただきサービス向上につながるよう取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市へ毎月初めに入居状況調査票の提出、アンケート依頼への報告、事故報告等を実施している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体へ向けて身体拘束を実施しないように会議の際に、虐待、身体拘束に繋がらないよう、実際のご入居者様に対して不適切なケアになる可能性がないか検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議等で、身体拘束防止委員会を開催し学ぶ機会を設けている。また、虐待につながるような声掛けになっていないか等職員同士で声に出しやすい環境づくりに取り組んでいる。		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や後見人制度について法人の勉強会で学ぶ機会を設けている為ユニット会議での研修を検討している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には利用者様やご家族様に、丁寧に説明し不安や疑問点など尋ね確認しやすいように努めている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設にご意見箱を設置し、運営推進会議でご家族様にご意見を頂いている。すぐに職員間で共有し運営に反映されている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や会議で意見や提案を収集し反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の評価や昇給試験を実施し職員の意思確認で各自が向上心をもって働けるように努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修が受けやすいように呼びかけ学びやすい環境になっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区のグループホーム管理者連絡会に参加し役員として活動しながら同業者と交流をもち、勉強会を予定している。活動を通じてサービスの質向上に取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の事をまず知る為に困りごとだけではなく、楽しみや、嬉しいことなども会話から聞き取りできるように、関わる時間をとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用される前に困っていることや不安な事をお聞きしておいて、サービス時にその不安が軽減できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談の際に今困っていることについて伺い、必要としている支援を見極めている、その際他のサービス利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来ることを活かしてもらえるように家事のお声掛けをし、職員と一緒にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様のお気持ちを一番に考え、ご家族様に協力して頂き一緒に支えて頂けるよう関係性づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に協力いただき、馴染みの方と関係が途切れないよう、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お1人お1人が孤立しないよう、集団で行えるレク活動や、個人のご希望に合わせた会話づくり等で関わり合いが持てるように努めている。		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了時に今後も相談に乗れるようお声掛けし、退所後も相談等お受けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の意思を言えられない方でも、入居前に担当のケアマネさんや、ご家族様からお話をお聞きしてご本人様の性格や生活歴など把握し思いや意向を把握出来るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当のケアマネさんや、ご家族様からお話をお聞きしてご本人様の性格や生活歴など把握し思いや意向を把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の会話や表情、行動を観察し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の把握をし、ご本人やご家族様に相談、確認を行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の活用と職員間の申し送りでの情報共有で迅速な検討に心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の状況把握に努め、都度職員と話しをし、柔軟に解決していくよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の公園や美容室、保育園や福祉施設との交流に努め安全で豊かな暮らしが楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望を大切にし、都度確認し同意を頂きながらかかりつけ医に連絡をとり、適切な医療が受けられるように支援している。		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師の配置が無い為訪問診療時に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	施設での生活を伝え情報の共有を行い、早期に退院できるよう連絡をとり、病院関係者の方と関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する可能性が考えられた場合のご意向を入居時に確認している。重度化した場合に改めて御家族様のご意向を伺い、医療とも連携をとり支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時のシミュレーションを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な施設での避難訓練と近隣の施設と連携を図れるよう合同の避難訓練を実施し協力体制を築いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の尊厳を大事にし、お声掛けの声のトーン等を意識し、更衣や排泄時などプライバシーの配慮を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意志を確認し、お手伝いや安心できる選択肢ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースに合わせ、確認しながら希望に合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様に見てもらい選択して頂いて更衣を支援している。髪を整える時には、ご自分で鏡を見てお好きなように整えられるよう支援している。		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事や水分の提供した物や摂取量を確認しながら支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせた、食べやすい食事形態や水分を用意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご本人様の状況に合わせた口腔ケアを実施している。また、希望されたご入居者様には訪問歯科による口腔ケアを受けていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の汚染状況や時間を確認しトイレ誘導や声掛けを行いトイレでの排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳の提供や寒天ゼリーやヨーグルトのおやつ提供等で予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者様の生活に合わせた入浴日を決め、入浴剤や音楽をかけ入浴を楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や様子を見ながら日中も臥床して頂く時間を作っている。また夜間帯は部屋の照明なども確認し、安心して寝て頂いている。寝つきが悪い方は、職員が寄り添う、話を傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬提供の際は職員やご本人様に確認を行いミスがないよう取り組んでいる。また医師の処方箋や往診、受診の際、説明などもしっかり聞き内容を職員で共有している。疑問があった場合医師に確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた家事や掃除等の役割の提供、嗜好に合わせた好みのおやつ等の提供等を実施している。		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のご希望に合わせた外出等は出来ていないが、天候や気温などに合わせてご本人様の意向に合わせた外出が提供できるように、また、ご家族様の協力も頂き外出できるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金の管理を行いながら、買い物や安心の為の所持が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙をお好きな時にかけられるよう都度お声掛けしている。また御家族様にもお電話頂けるようにお声掛けしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは毎日の清掃で清潔に、配色は白や木目で落ち着いた色を使用し、季節を感じて頂けるような飾りを装飾している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを幾つか配置し、ご自分のお気に入りのスペースを使用して頂いて、ご入居者様同士の会話や、好きな雑誌や新聞を読める場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたなじみの家具や布団、家族で写っている写真などを持参して頂き自分の部屋として安心して頂ける居心地の良い環境になるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなどに手摺りを設置し安全に歩けるように工夫している。居室には表札やご自身の写真など貼りご自分の部屋だとわかりやすく安心して入れるようにしている。		